丹羽玉邦「芦と双鴨」

　丹羽玉邦が芦と鴨のつがいを描いた作品です。鴨は冬場につがいとなり春に繁殖地へ向かうため、冬から春にかけて描かれたものでしょうか。静かな水面を優雅に泳いでいます。

　丹羽玉邦は戦国時代の岩崎城2代目氏識の弟氏征の子孫です。名前は俊三と言い、幼い頃祖母（高木雪居の娘）から灰の上に絵を描き教えてもらったとされます。石河有粼、川合玉堂、橋本雅邦に師事。のちに玉邦と号し、一筆画を得意としました。大正時代から昭和初期にかけて愛知県で活躍した代表的な日本画家の1人です。